相馬（＋）を歩こう!!　第６弾

仙台藩と相馬中村藩の戦いの跡を巡る旅

相馬市千客万来館

DATE VS SOMA

地図は地理院地図を利用しています。

伊達と相馬の境の桜

『由来』・・・碑文から

むかし伊達氏と相馬氏は共に下総国（茨城県）からこの地方に下向した親しい仲であり以来長い世代にわたり共に栄えて東北の二大古豪とうたわれた。両雄並び立つために時には境を争うこともあった。しかし仲よく話し合い互いに負けず劣らず実力を蓄え地方の開発に力を注いだ。人々はこの境の地に桜を植え

「伊達と相馬の境の桜　花は相馬にみは伊達に」

と、この善政を謳歌した。本日有志相はかつて由緒の地に新しい桜を植え昔を偲び今後の交流、発展を期するものである。

昭和46年4月22日福島青年会議所・相馬青年会議所

丸山城址

丸森町渕ノ上

天文17年(1548年)、嫡男・伊達晴宗との天文の乱に敗れた伊達稙宗は、晴宗に家督を譲って隠居することになった。この時隠居領として伊具郡東南部と宇多郡北部が宛がわれ、丸森に隠居城を構えた。
ところが、永禄8年(1565年)に稙宗が死去すると、天文の乱で稙宗方の主力を担い、また隠居後も稙宗の世話をしていた相馬氏が領有権を主張して伊具・宇多両郡に進駐し、丸森城も相馬氏に接収された。これに対して伊達氏側も稙宗の孫・伊達輝宗がただちに稙宗隠居領の奪還に乗り出したが、相馬勢の堅い守りに阻まれて果たせず、以後丸森城をめぐる相馬・伊達間の合戦が幾度となく繰り広げられたが、天正11年(1583年)5月17日、輝宗はついに丸森城を攻め落とす。

引用：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia)』

小斎城址

丸森町小斎字北町場

元は、伊達氏の支配下にあったが、伊達稙宗が死去すると、相馬氏は伊具郡南部へ勢力を広げ小斎、金井、丸森といった要所を手中に収めた。後に、相馬氏の家臣・佐藤為信が城代として入城。伊達氏は伊具郡奪還のため連年に渡り出兵するが、相馬氏の抵抗は頑強で、15年近く相馬氏が抑え続けた。しかし、1581年に佐藤為信が、伊達輝宗からの内応の誘いに応じて城ごと伊達家へ寝返る。輝宗はこれを大いに喜び、佐藤為信に小斎城と知行を安堵し、一族の家格を与えた。以後は小斎城主として相馬家と対峙することとなる。

金山城址

丸森町金山坂町

金山城は、永禄年間に相馬氏の家臣井戸川将監、藤橋紀伊が築城したと言われる。その後伊達氏と相馬氏の争奪戦が展開された。天正9年（1581年）には伊達政宗が初陣を飾り、同12年（1584年）に伊達氏の領有となった。そして、金山城は政宗の家臣中島宗求が2千石で拝領した。江戸時代は元和の一国一城令により金山要害と称し、引き続き中島氏が明治維新まで居住した。
明治元年（1868年）戊辰戦争後に一度南部氏が白石藩に転封され、補修がされたが、後に幕末に勤皇派としていた旧城主の中島氏に払い下げられた。

新地城跡

別名簑首城。(新地町谷地小屋字舘前二)
※頂上(本丸付近)に駐車場あり。道が狭くてカーブが急なので注意。

永禄9(1566)年ころ相馬氏によって築かれた。その後天正17年(1589年)相馬義胤が田村に転戦している留守をつき、伊達政宗が新地・駒ヶ嶺を攻め落とした。政宗は、この城を亘理重宗にあたえ坂本三河を城代として置いた。慶長5年頃に廃城になったとされている。
城の構造は、本丸を囲んで、西館、北屋形、東館があり、内濠及び外濠の跡も見られる。虎口と見られる遺構が本丸西南方、東館南方などに残っており、また、東側の熊野神社に抜ける北枝尾根は木崎方面への戦道と伝えられている。(案内看板より抜粋)

本丸跡を望む

新地城縄張

現在は、地区の人々が大切に管理しています。

駒ヶ嶺城跡

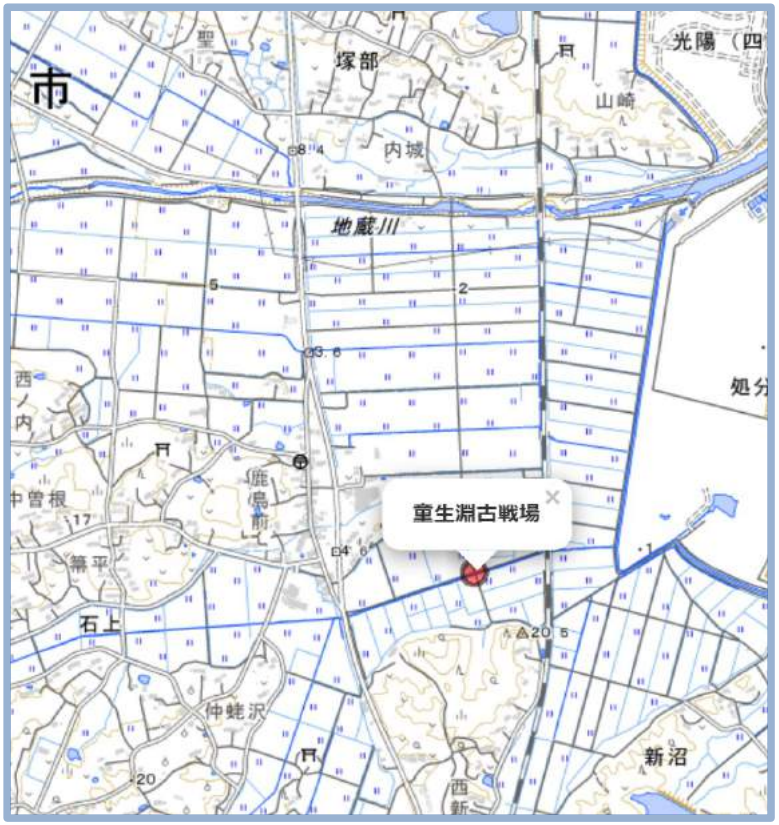
牛が寝そべっているような形状をしていた為、別名臥牛城とよばれた。(新地町駒ヶ嶺字舘)　　※駐車場がないので注意。

永禄年間から天正初年頃に、相馬盛胤が伊達氏への防衛網を強化するために築き、藤崎摂津守を城将として置いた。天正17年（1589年）5月に、伊達政宗の家臣・亘理重宗が駒ヶ嶺城を攻略すると、政宗は黒木宗俊を城主とした（のちに桜田元親と交代）。この時に政宗が獲得した宇多郡北部（現：新地町）は幕末に至るまで仙台藩の所領となり、駒ヶ嶺城は浜通りの伊達領最南端の城砦となった。江戸浜街道が城の東側と南側に沿って進み、城の南側の町屋敷が駒ヶ嶺宿となっている。宿場の西側に境目番所があり、町屋敷の南側には川を挟んで足軽屋敷が立ち並び防衛線を形成していた。慶応4年（1868年）の戊辰戦争の際には、仙台藩の浜通り方面軍の本営が置かれた。

引用：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

童生淵古戦場

天正18年(1590年)駒ヶ嶺と小豆畑に伊達の兵が来たとの知らせを受け、当時の中村城代相馬隆胤(義胤の弟)は、5，6騎従い十二所山(駒ヶ嶺字十二所南･･塚部字善光寺の南に隣接)に登った。後続の兵は来たものの味方の兵は少なく、多くの武将を失った。薄暮となり退却を始めるが、隆胤の馬が深田にはまり馬は動けず、そこで戦死する。



※ＪＡふくしま未来相馬カントリーエレベーターの県道を挟んで反対側の田。隆胤公が討たれた場所は、800mほど北の地蔵川周辺という説もある。

首塚

その後、殿様の首を取られるのは武士の恥であるとして家臣が、殿様の首を切って持ち帰った。その後、黒木に埋葬したところが隆胤の首塚となっている。

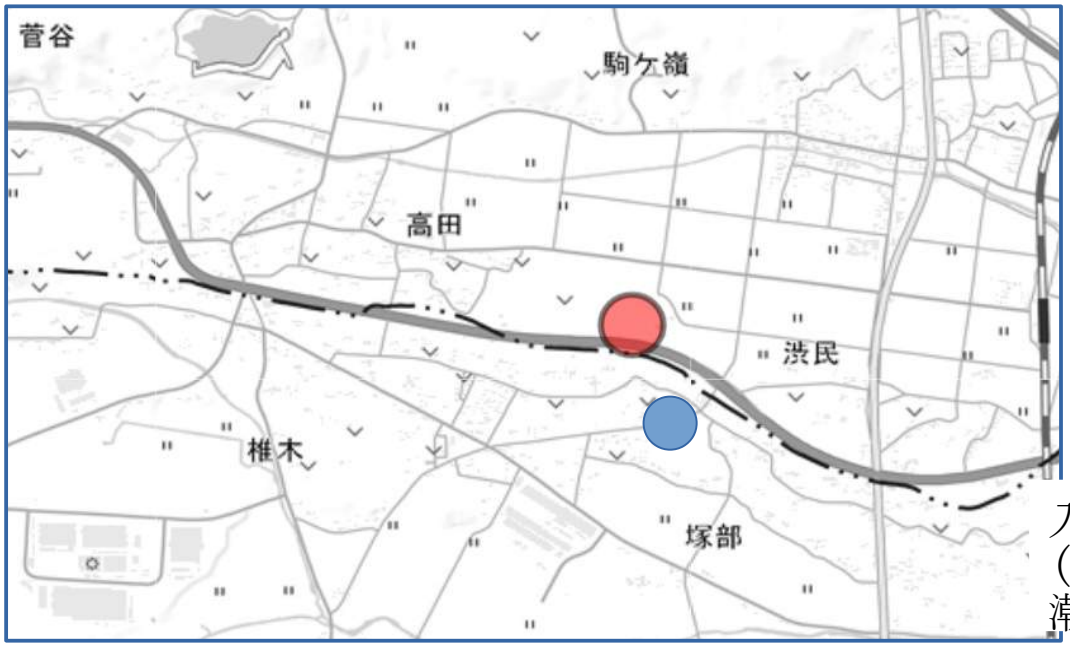
※西部子ども公民館の北側を東に進み、黒木公会堂を過ぎて30mほど。地区の方々が石碑を設置したり、除草をしたりして大切に管理されている。

白幡の逆さいちょう

● 印

天正年間(1573～1592年) 当時この地は相馬領であったが、相馬義胤が三春に出陣していた隙をついて、伊達政宗に攻め取られた。逆さいちょうの名は、伊達政宗が杖を逆さにさして忘れていったものが成長し大きくなったという言い伝えからついた。白幡神社が祀られている。

・福島県指定天然記念物
・福島県巨木ランキング第2位



入り口:国道113号線北側(至原釜方面)にみちのく潮風トレイルの看板あり

聖口のお地蔵さん

● 印

相馬中村藩と仙台藩の境には土塁を築き、境木を植えた。藩境の通路として聖口、原口、上ノ口、中ノ口、下ノ口が設けられた。このうち聖口には、境の守り仏として延命地蔵尊として建立された。現在建っているのは地元有志によって再建されたもの。近くには、辻札も立つ。